



平成29年3月期 第2四半期 決算説明会

クボテック株式会社

概要

- ◎フラットパネルディスプレイ(FPD)分野では、FPDメーカーの設備投資は一部において引き続き堅調で、液晶や有機ELなどで設備投資が継続されました。
- ◎当第2四半期は、売上は前年同期を下回りましたが、損益は当初計画通り黒字となりました。通期においても、画像処理外観検査装置などの受注を確保し、当初計画を達成する所存であります。
- ◎ 当社グループは、引き続き新規事業、新製品の開発をはじめ、コスト削減などの対策と事業構造の改革にも取り組み、安定した売上と利益の確保に努めております。
- ◎新製品として、電池関連の機能性フィルムや有機EL向け検査装置の引合受注が増加しております。また、3DCADシステムの国内、海外での収益拡大にも取り組んでおります。さらに、新規事業の次世代フライホイール蓄電システムは、事業化に向け準備を進めております。

経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成28年9月期)	前第2四半期 (平成27年9月期)	前 期 (平成28年3月期)	当期予想 (平成29年3月期)
売上高	1,334	1,446	2,636	3,200
営業利益(△損失)	34 (2.6%)	△ 66 (△4.6%)	△ 134 (△5.1%)	110 (3.4%)
経常利益(△損失)	24 (1.8%)	△ 73 (△5.1%)	△ 150 (△5.7%)	100 (3.1%)
当期純利益(△損失)	19 (1.5%)	△ 83 (△5.8%)	△ 168 (△6.4%)	90 (2.8%)

◎当第2四半期は、前年同期に比べ減収となりましたが、収益性の高い国内向け製品などの売上割合が増加したことから、損益は当初計画を達成し黒字となりました。

◎通期においても、画像処理外観検査装置の受注獲得などで売上をほぼ確保しており、当初計画を達成するべく努力する所存であります。

◎海外子会社は、売上が減少するなど計画を下回りましたが、通期においては収益を改善し、一層の経費削減を進め、業績に寄与するものと予想しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成28年9月期)		前第2四半期 (平成27年9月期)		前 期 (平成28年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産						
現預金	870	27.9	1,160	30.2	1,373	39.6
売上債権	859	27.5	1,227	32.0	743	21.5
在庫	417	13.4	490	12.8	414	11.9
その他	△ 51	△ 1.7	△ 28	△ 0.8	△ 60	△ 1.7
固定資産	1,027	32.9	990	25.8	996	28.7
資産計	3,122	100.0	3,841	100.0	3,466	100.0
流動負債	1,593	51.0	2,024	52.7	1,795	51.8
固定負債	404	13.0	640	16.7	586	16.9
負債計	1,997	64.0	2,664	69.4	2,381	68.7
資本金	1,951	62.5	1,951	50.8	1,951	56.3
利益剰余金	△ 782	△ 25.1	△ 717	△ 18.7	△ 802	△ 23.2
その他	△ 44	△ 1.4	△ 58	△ 1.5	△ 64	△ 1.8
純資産計	1,124	36.0	1,176	30.6	1,084	31.3
負債及び純資産合計	3,122	100.0	3,841	100.0	3,466	100.0

◎総資産は、前年同期末に比べ、売上債権、現預金、在庫などで7億円減少した結果、31億円となりました。

◎負債は、前年同期末に比べ、借入金が5億円減少するなど、約20億円となりました。

◎純資産は、前年同期末に比べ、ほぼ横這いで11億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成28年9月期)		前第2四半期 (平成27年9月期)		前 期 (平成28年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日 本	1,068	80.1	841	58.2	1,538	58.4
米 国	186	14.0	236	16.3	470	17.8
韓 国	79	5.9	368	25.5	627	23.8
計	1,334	100.0	1,446	100.0	2,636	100.0
うち海外	726	54.4	1,048	72.5	1,754	66.6

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置の売上が、当初計画を下回りましたが、前年同期に比べ増収となりました。

◎米国では、3次元CADソフトウェア「KEYCREATOR」の売上が伸び悩み、また為替の影響もあり減収となりました。
より競争力のある製品開発に向けて、営業と開発が一丸となって収益改善に取り組んでおります。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連部品の販売などが客先の投資計画の見直しにより、減少しました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成28年9月期)	前第2四半期 (平成27年9月期)	前 期 (平成28年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	74	△ 280	64
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 97	△ 86	△ 147
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 446	235	170
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 33	0	△ 6
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 502	△ 131	80
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,280	1,199	1,199
VII.現金及び現金同等物の期末残高	777	1,068	1,280

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増加はあるものの、仕入債務の増加、減価償却、純利益の計上などから7千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、3DCADシステムの開発投資などで9千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行借入の返済により4億円の支出となりました。